② ソシオメトリックテスト（5月末）から

A男　相互選択　2（B男，C男のみ）

　　被排斥　　8

被排斥の理由として上げられていたものは「ツッパリ，こわい，言葉づかいが悪い」などであった。B男は被選択が7人で人気がある。C男は「周辺児」である。

5　予測診断

A男に対して父親は，積極的拒否傾向が強く，しばしば暴力をふるった。そのため，A男も子供のころから粗暴で，同級生などに対して暴力的な言動が多かった。また，祖母の溺愛はA男のわがままを助長した。母親はA男を教え諭すよう育てたため，A男は心優しく純朴な一面をもっている。

B男は，祖母に溺愛され甘やかされて育ったため，わがままであり自己中心的である。しかし，素直で人なつっこい一面もある。

C男は，一人っ子として過保護，過干渉的に育てられたため，神経質で内向的である。また，性格の異なるA男，B男にひかれている。

学校生活への不満感などから，3人はグループをつくり休み時間を中心に活動している。3人とも学習意欲に乏しく，反抗的である。中でもA男は3人のリーダーであり鬱屈した攻撃性を秘めている。

現時点で，3人とも放課後部活動を熱心にやっており，問題行動は顕在化していないが，適切な指導援助がなされないならば，A男を中心とする「集団暴力」などの問題行動が起きることが予測される。

6　予防仮説

この3人の中で最も不満感が強く，問題を起こす可能性があるのはA男である。従ってA男を中心とする指導援助が必要であると考えられる。

⑴　共通したアプローチ

①　担任が3人にチャンス相談をしてかかわることにより，ラポールを深める。

②　学級の係活動を通して，存在感を高めるとともに，責任感を育てる。それが同時に，学級全体の士気に結びつくよう配慮する。

③　「学習日記」の活用を図り，基本的な学力を身につけさせて自信をもたせる。

④　家庭訪問や，定期懇談で，親とのラポールを深め，問題への気づきと早期対応に努める。

⑵　個別的なアプローチ

①　A男に対しては，鬱屈した攻撃性を部活動で発散させ，目的に向う充実感の中で人間的な成長を図る。また，A男が本気になって取り組む姿勢は，B男，C男に良い影響となって反映していくことを，自覚させる。

②　B男に対しては，係活動などで認めて褒めることで，責任感や規範意識を高める。

③　C男に対しては，温かい雰囲気で接し，係活動などを通して，自立心を育てる。

7　予防援助の経過

4，5月，担任は3人に対して，チャンス相談に努めたが，A男の心はまだほぐれてなかった。

A男の心にふれる

6月の初めの昼休み時間に，理科の担当教師から『4校時の実験の時間にA男たち3人が騒いで授業にならなかった。』と，担任へ報告があった。

さっそく3人を呼んで事情をきくと，B男が「実験の仕方が分からないので，隅の方で遊んでいただけだ。」と言う。A男は，暗い表情でうつむいていた。C男は，不安げに担任の顔を見つめている。

「反省しているのか。」

担任が尋ねると，3人ともうなずいた。

「じゃあ，これから理科の先生の所に謝りに行こう。」

「おれたちだけでですか？」とB男。

担任は，笑って3人をつれて，理科室に謝りに行った。担任が，理科の担当教師に謝っている間，3人はしおらしくしていた。理科の先生に「ほら